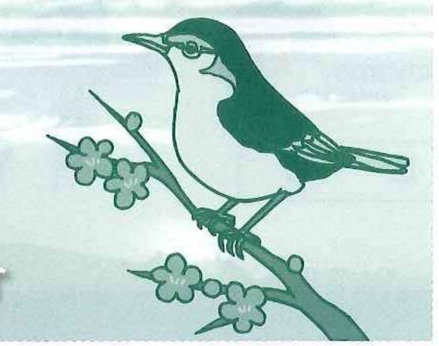
迎春



謹んで新年のごあいさつを申し上げます

心に響く美しい村

高山村長 荒木 毅

明けましておめでとうございます。

村民皆様には、ご家族お揃いで健やかなうちに新春を迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。昨年は公私にわたり大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、平成二十五年を振り返ってみますと、まず第一に春先から田植え時にかけての水不足が思い出されるのではないかと思います。当村にとっては何十年ぶりかの深刻な事態で、田植えが大幅に遅れたお宅や、水不足により除草剤がうまく使用できないなど、水田農業に大きな影響が生じました。その後も長く暑い夏が続きましたが、昔から中山陽気という言葉もあるように、総体的にみると農産物の作柄もよく、価格も堅調に推移し、村の基幹産業としての農業にとっては、まずまずの年ではなかったかと思います。

国においては、長年続けてきた減反政策に大きなメスが入れられ、今後は徐々にそれを廃止し、併せて農地の集約化を進めるとの方向性が示されました。当村のような中山間地帯にとっては、大変な事態となりますが、今後は大詰めを迎えたTPP交渉の行方と合わせて、その動向を注意深く見守り、的確な施策を講じて参りたいと思います。

村活性化の切り札として、建設を進めてきた道の駅『中山盆地』ですが、進入路や駐車場の整備もほぼ終了し、徐々に形が見えてきました。この道の駅については、往事の中山宿の賑わいを取り戻すことと共に、これを核として村全体を大きく前進させようとするものであります。昨年秋、全国公募した駅長ですが、北は北海道から西は京都府まで10名の応募がございました。1次審査、2次審査を経て、昨年12月に決定をしておりますので、今後の活躍を大いに期待したいと思います。

その道の駅に関連して、本年度「高山村6次産業推進補助金」制度を創設し、村内農産物に付加価値をつけていこうとする試みをスタートさせました。既にこの制度をご利用いただいている方もございますが、事業費の半額、上限300万円という大型補助事業でございますので、これにより、特色のある加工品の誕生を期待しておるところでございます。

村の特産に成長したリンドウ栽培ですが、本年も対前年比相当な売り上げ増となりました。県立勢多農林高校との連携を更に深め、高山村独自の品種を作り上げていかなければなりません。

一昨年、関越自動車道で発生した悲惨なバス事故を受け、村としても従来のマイクロバス利用を見直すこととといたしました。スクールバス、福祉バスも含め、専門の民間業者に委託しておりますが、万一の事態を考慮すると、やはり見直して良かったのではないかと思います。

村内の防犯灯、消防灯については、すべてをLEDといたしましたが、これにより料金が節約され、また球切れもございませんので、区長さんのお仕事の軽減も図られるのではないかと思います。

村民皆様の安全安心確保の一環として、この度泡消火搭載の消防自動車を購入し、役場分団に配置しました。常備消防の機能を持たせていますので、初期消火に大きな力を発揮するものと期待しております。

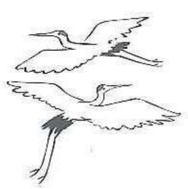
昨年スタートした新田宿復活祭ですが、今後は毎年11月の紅葉の時期に開催することとし、夏のふるさと祭りと共に村の2大イベントとしての位置づけを考えています。

地域活性化対策の一つとして、長年の懸案とされてきた都市との交流ですが、昨年は9月28、29日の両日、神奈川県藤沢市の市民まつりに、高山村として出店することができました。今後の交流拡大を大いに期待したいと思います。

本年は明治22年に高山村が誕生してから丁度125年という大変区切りの良い年を迎えました。温故知新という言葉もございますが、当村の村民憲章は昭和54年に制定され、私たちが村づくりを考える時、常に目標とすべきものとされています。昨年、もう一度原点を確かめるべく、村内各ご家庭に配布をさせていただきました。その中の一節に「私たちは花と緑を育て、公徳心を養い、美しい環境の村を作りましょう」とあります。近年、村外から村を訪れる皆様に、この村のたたずまい、田園風景が高い評価をいただけるようになってきております。私たちは、これをしっかりと守り、更にその中に新しい動きを加えていかねばなりません。

「心に響く美しい村」実現のために、本年も村行政に対し、あたたかいご支援とご協力を賜りますよう切にお願いを申し上げます。

結びに、村民皆様にとって今年一年がより良い年になりますよう、一層のご多幸ご健勝の程を心からご祈念申し上げ新年の挨拶といたします。



年頭にあたって

高山村議会議長 平形 富二夫

新年明けましておめでとうございます。

村民皆様には、ご家族お揃いで平成二十六年の新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

平成二十六年の年頭にあたり、高山村議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。早いもので、東日本大震災で発生した「がれき」の受入が始まって以来、昨年の6月7日、最後の「がれき」が搬入され、一年間の受入期間が終わり、中之条町、高山村、東吾妻町の3町村でつくる吾妻東部衛生施設組合が受け入れた「がれき」は740t。

被災地で発生した膨大な量からすればほんの一握りに過ぎないかもしれませんが、全国に先駆けて受け入れを表明した組合の決断は、その後の広域処理を加速させる原動力となり、全国各地に受入先が広がり、岩手、宮城両県の「がれき」処理は、計画通りに本年度末までに全て完了できる見通しと報道されました。被災地宮古市の「がれき」を受け入れたことで、高山村も被災者の皆さんに貢献できたと思います。

今町村は、国民の生命を支えるために、食料供給、水源涵養、国土保全に努め、伝統、文化を守り、自然を活かした地場産業を創出し、個性あるまちづくりを各町村が進めています。しかし、都市部では景気回復の兆しが見られるものの、町村は少子、高齢化や過疎化の中で、依然として深刻な経済、雇用情勢に悩まされ、地域の活力は減退の一途をたどっており、厳しい立場に立たされています。

また、TPP交渉は、年度内にも合意するペースで交渉が進められているとの報道がありますが、この交渉の状況によっては、農林水産業を基幹産業とする町村の多くは、海外からの大量の安価な農林水産物の流入等により、深刻な打撃を受け、農山漁村が崩壊する恐れが高いといわれています。

国は、目標とする食料自給率の達成、食の安全性の確保、農山漁村の景観及び自然環境の維持、水源涵養等を維持する観点及びこれまで営々と築き上げてきた制度を守るために、国の実情に十分配慮した交渉を行なってほしいと思います。

村内では去年の田植えのシーズンに降水量が少なく、揚水場をフル稼働させても足りず、立抗「高山揚水場」も使わざるを得ない状況でした。

今村では、地下管理から地上管理へと進んでおり、地上管理している堂山揚水場、梅沢揚水場に続き、年度内に青年の家グランド場内に2カ所の深井戸を掘削しますから、地上管理が4揚水場になります。立抗に頼らない農業用水に大きな期待をしています。

道の駅の工事も進み、進入路、造成工業も終り、トイレ新築工事、ふれあいプラザ改築工事が完成を目指して進行中です。

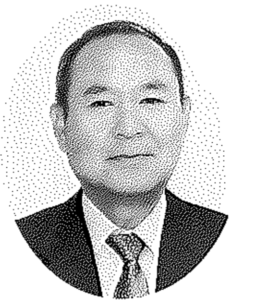
道の駅オープン後は、村のグリーンツーリズムの中心施設として、産業振興、情報文化の発信基地として栄えることを議会も期待しています。

今年も全議員が力を合せ、村民皆様が高山村に住んでいて良かったと思えるような村づくりに頑張っていきますので、今後もご指導とご協力をお願い申し上げます。

結びに、村民皆様にとって今年一年が素晴らしい年になりますようにご祈念すると共に、ご多幸とご健勝をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

年頭に当たって

高山村教育委員会
教育長　髙橋　直幸



新年あけましておめでとうございます。

村民皆様にはご家族お揃いで平成二十六年の新春を健やかなうちに迎えられたことと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中はひとかたならぬご指導とご鞭撻を賜り、誠にありがとうございました。おかげさまで学校教育、社会教育等の高山村の教育行政を順調に進めてくることができました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

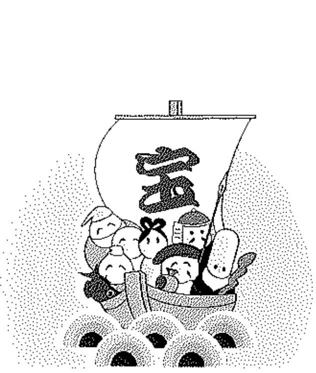
昨年を振り返る時、七月三十一日から八月六日にかけて中学校二年生を対象に実施されている「高山村中学生海外派遣事業」としてオーストラリアのトーマス・ハッサール校への訪問が実現し、高山中学校とトーマス・ハッサール校との間で姉妹校関係が築かれた場に居合わせたことを印象深く思い出します。参加した子どもたちは、現地での英語学習やホームステイなど、貴重な体験を通して多くのことを学んできたことと思いますが、更に、姉妹校関係となることで、広く海外にも視野を向けたものの見方や考え方を持つきっかけが生まれることを期待したいと思います。また、将来、オーストラリアの子どもたちが高山村を訪れた時、自然や生活習慣、文化など、どのようなことに興味を持ち、どのような印象を持ち、どのような感想を伝えてくれるか、今から訪問の実現が楽しみです。もちろん、その時には、高山村の緑豊かな自然と温かい人情、おいしい野菜などで心からの「おもてなし」に努めたいと考えています。

また、昨年の流行語大賞の一つに「倍返し」がありました。大雨や台風による土砂災害や猛暑、水不足など、まさに自然からの「倍返し」か、と思わずにいられない時期もあり、社会全体の在り方とともに人間と自然との共生の在り方について改めて考えさせられるものがありました。そして、ここでは「倍返し」の発想で自然や物事に向き合うのではなく、様々な場面において、人と人、人と自然とのつながりを大切にし、お互いに思いやる気持ちをもって向き合うことが必要なのではないかと思いました。学校教育や社会教育においても相手を思いやる気持ちが大切にされ、学校や地域の中でも思いやる気持ちが意識されることにより、それぞれの場で、より良い人間関係のみならず自然との共生関係も生み出されてくるものと考えます。

村内の様子を振り返ってみますと、年度当初に計画されていた事業が円滑に進められているものと考えています。特に、委託方式によるスクールバス・園バスの運行、補助員や学習支援員、マイタウンティーチャーなどを導入した園、学校への支援は、子どもたちの安全な生活やきめ細かな保育、学習指導につながっています。村議会をはじめ村民の皆様にご理解をいただく中で、子どもたちにとってより生活しやすく、学びやすい環境が整えられたことに深く感謝申し上げます。

また高山村の特色ある教育として、学びの連続性に着目した幼保小中の一貫教育の具現化を目指した取組も「たかやま学びと生活のやくそく」をもとに、実践が始まりました。これは、子どもたちの発達段階に即した学習と生活の約束を、その時期にきちんと身に付けさせることを大きなねらいとして取り組むものです。しかし、この取組は学校や園等の中だけで完結するものではありません。村民皆様からのご協力をいただきながら、「生きる力」を身に付けた子どもたちを育てていきたいと考えています。

現在でも村民や子どもたちを取り巻く環境には厳しいものがありますが、大事に至ることなく推移しており、関係各位のご尽力の賜と厚くお礼申し上げます。

平成二十六年度も知恵を出し合い諸課題の解決を図るとともに、高山村に培われてきた絆の強さに支えていただきながら、社会の変化や教育界の潮流をしっかり見据えた教育行政を執行していく所存ですので、よろしくご指導のほどお願い申し上げます

本年が村民皆様にとって幸せに満ちた、充実した年となりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。